

12 番 富 田

受付番号4番、質問議員12番、富田陽子。

件名、「やまきた子ども知っ得キャンペーンを」。

全国的に新型コロナウイルスの終息が見えない中で、山北町においては、感染症はゼロながらも経済活動や住民の生活への影響は長期化しています。とりわけ子どもたちが外出自粛や校内の行事の中止で、学ぶ機会や外へ出る機会が失われ、プールや公共施設の閉鎖や利用制限等により、安心して遊べる場がないことや、商工観光業への打撃は深刻です。

このような状況を踏まえ、従来の視点を転換し、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で山北町内での経済・人の循環を図ることが、今後のまちづくりにとって重要であると考え、以下の質問をします。

1. 6月定例会で景気回復の一環として、町内クーポン券発行についての質問があり、「商工会等と相談しながら町内クーポン券などがあれば、検討していきたい」との答弁があったが、その後、進展はあったか。

2. 商工観光業へのメリット、子どもたちへのメリットや町の将来へのメリットが想定できる事業として、各家庭の子どもの数に応じて町内で使える観光補助券を配布する「やまきたこども知っ得キャンペーン」を実施したらどうか。具体的には、商工会、企業、体験活動実施主体の法人や個人などに協力を募り、協力事業者が分かるよう地図つきパンフレットを作成し、観光補助券とともに配布する。これにより山北全体が可視化され、町の魅力を再発見し、町内循環型の観光や経済の活性化が図られ、ひいては、これが将来のまちづくりの基盤になると考える。

このような観光補助券と商工観光業マップづくりの実現に向け、官民一体となって取り組むのはどうか。

議 長

答弁願います。

町長。

町 長

それでは、富田陽子議員から、「やまきたこども知っ得キャンペーン」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「6月定例会で景気回復の一環として、町内クーポン券発行についての質問があり、『商工会等と相談しながら町内クーポン券などがあれば、検討していきたい』との答弁であったが、その後、進展

はあったか」についてであります。初めに、今月から山北スタンプ会でプレミアム付商品券を発行しておりますので、町としても、この事業の周知や事務の補助等を支援し、スムーズな事業実施を後押ししていきたいと考えております。また、山北スタンプ会の商品券については、使用期限が12月中旬までとなっておりますので、その後の消費喚起策として、先ほど、和田成功議員からの質問にもお答えしましたとおり、町でもプレミアム付商品券の発行を検討しております。

次に、2点目の御質問の「各家庭の子どもの数に応じて町内で使える観光補助券を配布する『やまきたこども知っ得キャンペーン』を実施したらどうか。また、地図付きのパンフレットを作成し、観光補助券とともに配布することにより、町内循環型の観光や経済の活性化が図られるため、官民一体となって取り組むのはどうか」についてであります。御提案の新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されていない山北町内において、子どもたちが安心して遊べる場を造ることは、町内経済の活性化や感染症の拡大防止という観点からも大変有意義だと考えております。

観光補助券の配付につきましては、先ほど申しあげましたとおり、町のプレミアム付商品券の発行を通じ、より多くの町民に利用していただくことにより、町内経済の活性化を図るとともに、既存の町商品券の機能を拡充するために町内のアクティビティ事業者や体験観光を実施している事業者にも登録を呼びかけ、町の商品券を利用して、多くの町民が楽しむことができる環境を整備してまいります。

また、協力事業者が分かる地図付きパンフレットの作成につきましては、パンフレットを印刷することも効果的であると考えられますが、内容に変更があった場合の対応には時間を要することから、町のホームページや広報紙、リーフレットなどにより、商品券の利用が可能な施設の情報を発信するなど、町民に町の魅力を再発見していただき、観光や経済の活性化につなげていきたいと考えております。

議 長 富田議員。

12 番 富 田 今回の回答にありました、町でもプレミアム付商品券の発行を検討しております、とありますが、具体的には、山北町のスタンプ会の商品券が、使用

期限が12月中旬ということは来年度を想定しているということなんですか。

議長 商工観光課長。

商工観光課長 こちらの商品券につきましては、やはり、タイミングを途切れさせることがないようにと考えておまして、一応、年度内に事業化を図れるように考えております。

一応、発行につきましても年内の有効期限を年内にというか、年度内には終了させるような形で事業化を図りたいと考えております。

議長 富田議員。

12番 富田 この商品券は、これまでの商品券だと、やっぱり山北の事業所、これまで登録してある一覧表の中の事業者の場所で使えるということだったんですけど、今回の回答では、体験観光等の事業者も登録できるということは、これから、その業者とかに呼びかけをして、協力してもらえる団体に声をかけるといったような考えでしょうか。

議長 商工観光課長。

商工観光課長 御指摘のとおりですが、町内には、例えば、今年からSUPの事業をやっている体験事業者もあります。また、ガラス工房などもあったり、陶芸など体験的なものを行っているところもあります。

ですから、そういったところに声をかけさせてもらって、ぜひ登録をお願いして活用につなげてもらいたいという考えを持っております。

以上です。

議長 富田議員。

12番 富田 やっぱり、それには一緒にリーフレットみたいなのがついて、その一覧みみたいなのが出てくるようなイメージでしょうか。

議長 商工観光課長。

商工観光課長 一応、こちらの回答にも書かせてもらっていますが、内容的なものもございますので、一覧の事業者が御用意はさせていただこうとは考えております。

ただ、そこが例えばリーフレットの的な形で写真つきであったりとかとなると、多少時間とかもかかってしまったりする関係もありますので、極

力、インターネットなど使えるような形の中での周知を図りたいと考えているところです。

議 長 富田議員。

12 番 富 田 今回、私が質問させていただくというか、提案させていただく内容も、今回、町が検討されているようなプレミアム商品券の内容と似たようなところがありますが、今回、私が質問させていただくのは、具体的にイメージしているキャンペーンの内容としましては、ゼロ歳から18歳の子どもの商品券のような500円のクーポン券を6枚つづり3,000円分みたいな感じで、それに地図つきのパンフレットを作成して一緒に配布するといったようなイメージです。

このパンフレットには、町内の飲食店、そして、商店、観光名所、さらには中川等の温泉施設や宿泊施設、個人団体企業が行っている体験活動も載せたらどうかと思っております。例としては、三保地区での紙すきや共和地区で行っているカッティングボードづくりなどの木工体験や森林体験、あとは丹沢湖でのSUP体験、あとは沢登りに加えて個人で行っている陶芸教室や、さをり織り体験なんかも、これまでそれぞれ体験の活動を行っているところがばらばらでそういうことを宣伝していたわけですけど、そういうのをやっぱり官民一体で一つの山北町のマップとして掲載して、町側でも実施している、例えば、森林セラピー体験などの情報も一つの冊子にして配ったらどうかと考えているところです。

これには、やはり、町、商工会、観光協会、そして、そういう活動を行っている団体や個人の協力も欠かせないと思っておりますので、そういうところで協力して、例えば、実行委員会みたいなものをつくって、マップを作成するのはどうかなというふうに考えております。

今回、提案しようと思った背景には3つの理由があります。

1つ目は、子どもたちへのコロナの影響です。

緊急事態宣言中は学校にも行けず、外出も自粛されて、外で遊んだり、思い切り騒ぎたいのを我慢していたと思います。その後も夏休み期間が短かったり、プールが夏休み期間中は休みで使えなかったり、伸び伸びと遊んだり外へ出る機会が、今年はかなり減ってしまったのではないかなと思います。

この山北の自然に触れる体験をさせてあげることが、これまでのコロナの影響でストレスがたまっていたのではないかとと思われる子どもたちのストレスの軽減を図りたいと思ったのが一つの理由です。

もう一つの理由としては、やはりコロナの影響による商工観光業への打撃です。

一部上場の旅行会社の平均的な上半期の売上げは、前年対比の1.4%だそうです。町内の飲食店の経営者からも、お客さんが通常どおりに戻ってくるのは数年後、いや、一生戻ってこないかもしれないというか、かなり悲観的な諦め的な声も聞かれました。国も、Go Toキャンペーンとか実施してまですし、町独自でも、これまで様々な支援策で、商工観光業への支援をされてきたかと思いますが、今回は、町内循環を図っていけないかなというふうに政策的に思いました。今後、コロナの終息が見えないというところもあって、短期的な経済活性のためにも、このような案を思いつきました。

3つ目として、先日、大滝沢で沢登りをしたことが一つの理由です。

ここにおられる皆様で、山北町内で沢登りをしたことがある方どれだけいらっしゃるでしょうか。もし差し支えなければ沢登りに行ったことがある方、手を挙げていただければと思うんですが、どうでしょうか。

大滝沢キャンプ場の周辺から大滝へと沢を登っていくんですけど、本当に水がきれいですごく気持ちがよくて、沢を登ったり、川の流に身を任せてみたり、ジャンプしてみたり、すごくいい体験ができたんです。こういうところが山北にあったということが、私がここに移住して5年たちましたけど、今年に入るまで知りませんでした。町内に、こういうところがあるということを知らなかったな、本当にこれまで行かなかったこと、そういう沢登りということをしなかったということは何かもったいないなぐらいに、この暑い夏、この沢にいるっていうその空間がすごくよかったし、その体験がよかったんですけど、それを、果たして、山北町内に住んでる方がどれほど知っているのかなというふうに思いました。こういう体験が地元でできることをぜひ知ってほしいなと思ったのが今回の提案させていただく理由の一つです。

ちょっと、これまでどおりだったら外へ出かけるときって町内とかで遊び

に行くことは少なく、やっぱりどうしても遠くの県外とか、違うところへ遊びに行ってしまうということが多いと思うんですけど、また、逆に地元で遊ぶという機会、地元で何か今日はこうしようかなってなかなか少ないと思うんです。そして、共和でいろんな体験授業とかを行ってありますが、町内からの参加者って少なく、かなり、やっぱり都会から参加される方がとっても多いんです。なので、町内でこんな体験ができるとか、こんな事業ができるってことを町内の人は知らないんですね。そして、なかなか知らせる媒体もこれまで少なかったと思います。なので、今回、こういうコロナの影響でイベントも中止になっている今だからこそ、町内のよさを知るいいきっかけ、さらにそのいいところをまとめて一つのものにして可視化できるってことがいいというか、大切かなというふうに思いました。沢登りで言いますと、「丹沢の沢」っていう本が出てるんですけど、「丹沢の沢200」っていう本があって、その中の200のうち100は山北町町内の沢100が掲載されて紹介されてます。その中に小川谷廊下というところがあるんですけど、そこは関東で3本の指に入る美しい沢があるそうで、やっぱりそういうことが、外部の詳しい人あるいはピンポイントで沢に詳しい人は知ってますけど、町内の人々がそういうことを知ってないってこと、魅力を知ってないってことが問題ではないのかなというふうに、知る機会がないのかなというふうに思いました。

今回のキャンペーンのメリットとして、町内の観光でしたら、コロナ感染者数が現在ゼロなので安心だということ、そして、地域の商店など、買物や飲食店、観光業を促進できるということ、さらには、自然体験学習や観光を通じて自然や文化を子どもたちへ伝えられるということ、そして、これまで外出自粛を強いられてきた子どもたちに外へ出る機会が与えられるということ、子どもやその親たちが山北町の魅力に触れることで自分の住んでいる町がいいな、すてきななって周りに紹介したいなって思えること、誇りに思えることがメリットだと考えます。

そして、町の将来へのメリットとして、子どもや親が町の魅力を知ったり、周囲に伝えたり、住み続けたり、あるいは一回出たとしても、また自分が住んでた町がよかったっていう経験があれば戻ってくる、Uターンするという、

結果的に人口が増えたり、人口減少に歯止めがかかることにつながっていくと考えます。そして、今回そのマップを作るってということにより、地域の観光資源が集約されると、コロナが終息した後、さらにはスマートインターが開通した後に、町外からの集客の基盤ができていると思います。

道の駅にこの間行ってきましたが、山北の観光パンフレットが置いてなかったんですね。やっぱり、そういうところにそういうマップが一冊あれば、予定を決めてなかった人も、今日はこれを行ってみようかなっていうチャンスに今後つながっていけるかなと思います。

町長、いかがでしょうか。

議
町

長
長

町長。

ありがとうございます。

質問内容が、要するに体験型っていうようなことと、そういったようなことでしたんで、どんなことかなってことで考えておりましたんで、若干、プレミアム商品券については、今、現在、国のほうのあれを使おうということを考えておりますんで、どうしても国のほうの制度の中で、早くやらなきゃいけないとか、いろいろなことがあるんで、多分、今、富田議員のおっしゃったようなところにはあまり該当しないだろうなと思いますので、それではなくて、おっしゃるように、そういう体験型に特化したような、また対象者も年齢を絞ったような、そんなようなことを国の助成金とか関係なく考えていかなければいけないなというふうに思っております。

そういった意味では、若干時間はいただくかとは思いますが、ぜひ私も、そういったような山北町の様々なところを皆さんに発信していく、私も小川谷廊下は行きたいと思っはいるんですけども、あるのは知ってるんですけど行ったことはないというようなことで、沢登りというのは、非常に山北町夏でね、寒くなるとちょっと無理だというふうには思いますが、そういうようなところがあるというのは知ってますので、そういったことが、また子ども向けの簡単なようなところも当然あってもいいんじゃないかなというふうに思います。

そういったような山北町の魅力が色々ございますので、そういったものをぜひ子どもたちに知っていただくような、そんなような提案は、私のほうと

しても、ぜひ、これからも進めていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ、これからも富田議員のおっしゃるようなそんなような具体的なやつを示していただければ、うちのほうでも、それに沿って検討していきたいというふうに思っています。

議 長 富田議員。

12 番 富 田 検討していただけるということで、今後、早期に具体的に、町だけじゃなくて、いろんな業者とともにこういうことを検討していけたらいいなというふうに考えております。

やっぱり、一番最初に心配したのは子どものことで、この暑い夏どこへ行くんだろうとか、そういうことをちょっと心配したんですね。何か、かなりぶなの湯の前の川とかは、観光客で今年の夏にぎわってて、車、駐車場も止められなかったぐらいだっというふうに聞いてますが、それが、ほとんどが県外の車だったり、なかなか、町内の子どもたちがあそこまで遊びに行っていないんじゃないかなっという気になりました。

例えば、こういうクーポン券ではなくても、学校単位で教育委員会を通して、そういう体験授業を行ってるところとか、そういう観光名所に少人数でコロナ対策を徹底した上で行くといったようなことも考えられるのではないかなというふうに思います。

例えば、北海道では、苫小牧のほうではカヌー体験を行っている事業者があるんですけど、北海道道民なら半額、ほかの都道府県の人と道民と差をつけて体験が得られるようにしたりですとか、あとは、子どもたちがそういう体験をただで受けられるように町と団体と、あとは助成金や補助金を受けてるような団体と一緒に連携して、そういう事業を行っている事例もあります。さらには、今、やっぱり今後インバウンドなど見込めないような状況ですので、山梨県ですとか、例えば長野市ですとかは、県内の旅行社が企画した観光旅行なら補助金を出しますとか、やっぱり町内循環、県内、市内、内部循環に取り組んでいるところが様々あると思うんですね。そういったことを町内でも考えていただけたらいいなと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、今、こういったようなコロナの中で、特に、東京方面

から来ていただく方には非常にリスクがあるということで、非常にそういったことに町内の方では困るというか、嫌がるというか、そういう方も当然いらっしゃるというふうに思っておりますし、そういった意味では、私も思っておるんですけども、できるだけこの近辺、町内であるとか、あるいは、この2市8町、1市5町、そういった中で経済を回していくのがまず一つあるんじゃないかなと、我々もそういったようなことがなければ、なかなか簡単に自分でここへ行ってみようと、例えば、山北でいえば中川温泉泊ってみようという方がどのくらいいらっしゃるかというところだというふうに思っておりますので、しかし、それを少し背中を押すことによって、可能ではないかというふうに思っておりますので、そういったことと同じように、近場であれば、皆さんに来ていただいて、お互いに、山北からでも、あるいは松田へ行くとか、あるいは南足柄へ行くとか、そういったことも可能ではないかと、お互いにこの近場で経済を少し回していくというようなことであれば、皆さんもリスクが非常に少ないし、そういったことがあるんじゃないかと。

それから、3密というようなことを当然気にしているわけですから、こういったような体験型をやるときに、当然、例えば10人とか20人のグループで沢登りやるとか、いろいろなことをやるというふうに思いますけども、そのときに密にならないようにすることで、今、エリアガイドを用意するように、これは森林セラピーでやろうというふうに思っておりますけど、そういった中で今考えております。

ですから、そういった意味でも、いろんな最新の技術、機械を使えば、少し密を防げる、あるいは、そういったようなことが可能ではないかというふうに思っておりますので、体験型にはぜひそういったような機具類を使ってでも山北のよさを発信していきたいというふうに思っておりますので、ぜひ、いろいろな提案をいただきながら、我々としてもそれを前に向かって進めていきたいというふうに思っております。

議 長 富田議員。

12 番 富 田 私と思う町の将来像といいますか、願うこととしては、例えば、子どもたち一人一人が、例えばその親がこういうような体験を通す、または、町の魅力を知ってもらうということが、将来、山北の子どもたちそれぞれが町民全

員が山北の観光ガイドになることがいいのではないかなというふうに思っています。友人が訪ねてきたとき、例えば、ふらっと観光客に何かお勧めのものがいいかなと聞かれたときに、このお店の〇〇がおいしいよとか、ここに行くところこんなことができるよって、町民一人一人がそこでお勧めできるような、町のいいところを紹介できるようなふうになってほしいなというふうに思います。

そのためには、このコロナをいいきっかけとして、まずはこのふるさとを知る機会、魅力を知る機会をつくるのが大切なのではないかなと思います。やっぱり子どもが、自分が生まれ育った町がいいなとか、すてきだなんて思うこと、あとは、この山北、やっぱり水が豊富ですごくおいしくて、町外から来た人も、山北に泊まると化粧の乗りがいいとか、あとは料理がおいしく作れるとか、そんなことを言ってくれるんです。やっぱり、その魅力を自分たちが知ることによって、一旦、町を出たとしたって、また戻ってきたくなかったり、あとは、知人に勧めることで関係人口や定住人口につながるのではないかなと思います。

観光案内をするのは観光協会、定住対策を進めるのは定住対策課だけじゃなくて、町民一人一人が自分たちの町の魅力を知ること、それぞれがその役割を果たすことができる、そんな町にしたいと思っています。

以上です。

議 長 町長。

町 長 ありがとうございます。

おっしゃるように、やはり山北町、非常に住んでいただいて子育てをしていただきたい。そして、子どもたちには山北のことを知っていただきたいということで、何年も前から歴史については、学校の中で非常に力を入れて、皆さんに冊子を配ったりしながらやっているわけですけど、その中におっしゃるような体験、あるいは、その場所を知るとか、そういったようなことが当然、必要だろうというふうに思っておりますので、そういった意味では、これから山北町で生まれ育ってくる子どもたちについては、そういったような山北の魅力、そして、体験もぜひ学んでいただいて、知っていただきたいというふうに思っております。